

当院ではVPD (Vaccine Preventable Diseases) : ワクチンで防げる病気から子どもたちを守るために接種可能なすべてのワクチンを適切な時期に接種するよう指導しています。子どもたちがかかってしまう病気はたくさんあり、なかには治療が難しく命にかかわったり、後遺症を残してしまうものもあります。



この数年間でB型肝炎、水痘、ロタウイルスワクチンが定期接種となり、たくさんのワクチンを接種しやすくなりましたが、一方でおたふくかぜ、インフルエンザワクチンなどの任意接種のワクチン接種率はまだ十分とは言えません。予防する手段があることは子どもたちの健康を守るうえでとても重要です。ワクチンを接種することでVPDから大切な子どもたちを守ってあげましょう。

What's new?

ロタウイルスワクチンが定期接種になりました。

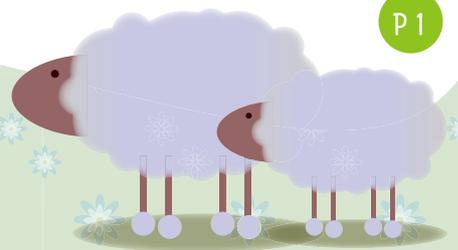
2020年8月1日以降出生の方が対象となります。初回の接種は生後14週6日までに開始することが勧められています。

*ロタウイルスワクチンについての詳細はコラム「ロタウイルスワクチンについて」をご覧ください。

2020年10月から接種間隔の制限が緩和されました。

厚生労働省は以下の3つを接種間隔についてのルールとしています。

- ① **注射生ワクチン**から次の注射生ワクチンの接種を受けるまでは**27日以上の間隔をおく**こと。
注射生ワクチン：麻しん風しんワクチン、水痘ワクチン、BCGワクチンなど
- ② 同じ種類のワクチンの接種を複数回受ける場合はワクチンごとに決められた間隔を守ること。
例：日本脳炎初回1回目→6日以上あけて→日本脳炎初回2回目
- ③ 発熱や接種部位の腫脹（はれ）がないこと、体調が良いことを確認し、かかりつけ医に相談の上、接種を受けること。



ワクチンの用語に関する説明

1) 定期接種と任意接種

定期接種 接種の対象者は予防接種を受けるように努めなければいけない。町村区から予診票が送付され、公費負担（自己負担がない）。

任意接種 受ける側の判断で接種を検討する。自己負担であるが、一部公費助成が適用される。

例) 目黒区の方は4歳までに1回おたふくかぜワクチンの助成が適用となります。

2) 生ワクチンと不活化ワクチン

ワクチンの製造過程の違いにより2つの種類があります。

一般的に不活化ワクチンは1回の接種では免疫が不十分なので複数回接種することになっています。既定の回数をしっかり受けるようにしましょう。これに対し生ワクチンは1回の接種で十分な免疫を得られます。ただし時間の経過とともに効果が弱まってしまうものもあるため、最近では2回接種がすすめられています。

VPDとそのワクチン接種時期

人生で最もたくさんのワクチンを受けるのは生後半年までと1歳のお誕生日の直後です。それぞれどんなVPDがあるか、下の表でチェックしましょう。

表1. 1歳までに接種するワクチン

ワクチンの種類	開始月齢	注意点やポイント
B型肝炎	0~2か月 (3回)	ヒブや肺炎球菌と一緒に2か月から開始することが一般的です。定期接種の期間は1歳未満です。
ロタウイルス★	6週 (2~3回)	ヒブや肺炎球菌と一緒に開始することが一般的です。遅くとも14週6日までに開始しましょう。
ヒブ (インフルエンザ菌B型) 肺炎球菌	2か月 (3回)	生後2か月になったら速やかに開始しましょう。
四種混合	3か月 (3回)	
B C G ★	(1回)	標準的には生後5か月頃接種しましょう。

■・・・定期接種ワクチン ■・・・任意接種ワクチン ★・・・生ワクチン

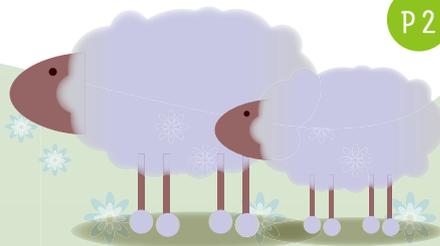


表2. 1歳を過ぎたら早期に接種するワクチンについて

ワクチンの種類	開始月齢	注意点やポイント
麻しん・風しん★	1歳 (2回)	就学前の2期も忘れず接種しましょう。
水痘★	1歳 (2回)	2回目は約6か月 (3か月以上) あけて接種しましょう。
おたふくかぜ★	1歳 (2回)	2回接種が推奨されています。
ヒブ (追加接種)	1歳 (1回)	3回目の接種から7か月あけて接種しましょう。
肺炎球菌 (追加接種)	1歳 (1回)	3回目の接種から60日以上あけて接種しましょう。
四種混合	1歳 (1回)	3回目の接種からおおむね1年あけて接種しましょう。

■・・・定期接種ワクチン ■・・・任意接種ワクチン ★・・・生ワクチン

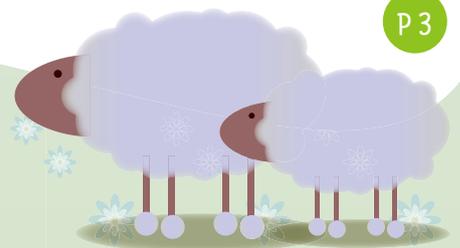
*各ワクチンの詳細は「小児科コラム」を参照してください。

幼児期以降のワクチンについては、「小学校入学前に接種しておきたいワクチン」、「思春期に受けておきたいワクチンについて」を参照してください。
また、毎年インフルエンザワクチンも忘れずに受けましょう。

同時接種について

たとえばヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンを同じ日に、違う場所（左右のうでや太ももなど）に接種することをいいます。これだけたくさんのワクチンをVPDにかかってしまう前に受けるためには同時接種は必要かつ有効な手段といえます。当院では積極的に同時接種をおこなっていますが強制ではありません。同時接種に関して不安があるかたは接種前に医師に相談してください。

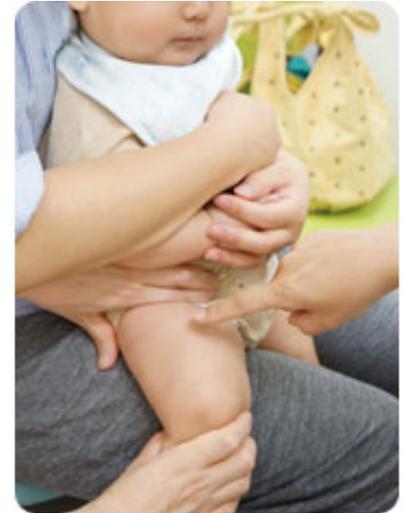
*同時接種に関しては「予防接種のおはなしその2」に詳しく書かれていますのでそちらを参考にしてください。



ワクチンの接種方法

海外では生ワクチンは皮下注射、不活化ワクチンは筋肉注射が一般的です。これにはワクチンの効果を高める目的、腫れる、痛むなどの局所の副反応を減らす目的があります。ただし日本のワクチンは「皮下注射する」と説明書（添付文書）にかかっているため当院では皮下注射としています。

以前は腕に接種することが一般的でしたが、同時接種が増えた現在では、より安全な接種部位が広く、痛みも少ないとされる大腿（太もも）に接種することが、日本小児科学会からも推奨されています。当院では体の小さい2歳までのお子さんには太ももに接種しています。



ワクチンの副反応

予防接種後に不機嫌、発熱、接種部位の腫れなどの副反応がおこることがあります。これらの副反応のほとんどが軽いもので、2-3日で軽快します。不活化ワクチンの場合接種後2日以内に、生ワクチンでは7日前後で発熱がみられることが一般的です。比較的元気であれば、様子を見ていただいてもかまいませんが、ぐったりしている、水分がとれないなどがあれば受診してください。

”接種可能なすべてのワクチンを受けたい”と思っても、接種する順番、時期など、迷ってしまうことも多いと思います。最近では予防接種のスケジュールを管理してくれるアプリなどもありますが、私たちも予防接種のスケジュール作成をお手伝いしていますので、ぜひご相談ください。

ご両親と小児科医が協力し、みんなで子どもたちをVPPDから守っていきましょう。

自由が丘メディカルプラザ 小児科

<http://www.jiyugaokamp.com/s>

TEL : 03-5731-3565

2020年10月20日改訂

